

# 平成22年度 学校自己評価システムシート (川越東高等学校)

目指す学校像	恵まれた自然環境と充実した施設・設備のもと、文武両道の精神で心身を鍛えることを目指す。また、全人教育の理念のもと、知育・徳育・体育という教育の原点を追究し、健全な青年の育成に教職員一同全力で取り組む。
重点目標	1 教員一人一人が教科研修に積極的に取り組み、講習や補習を充実させながら将来の目標に向かおうとする精神を鍛える。 2 保護者や生徒、地域住民に対する情報提供を積極的に行い、今の時代に相応した開かれた学校作りを推進する。 3 生徒全員が各自の目標に向かって進んでいけるような雰囲気を作り上げ、学校全体で大学受験へ積極的に取り組んでいく。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	1名
	事務局(教職員)	4名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					年度評価(4月7日現在)		
年度目標					達成	次年度への課題と改善策	
科	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標			評価項目の達成状況
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業指導力・授業展開能力の更なる向上に努めるのは、継続的な課題である</li> <li>○生徒の掲げた目標を実現させるためには、教職員全員が一丸となって指導する体制を強化していく必要がある</li> <li>○現行教育課程を評価し、新教育課程の大枠を策定する</li> </ul>	授業改善を始めとする学力向上に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教員が必ず年1回、研究授業を実施する。</li> <li>・教科研究会を実施する。</li> <li>・生徒からの意見やアンケート結果により、授業改善に取り組む。</li> <li>・シラバスを作成する上での授業内容の検証を行う。</li> <li>・生徒の学力定着度を調査し、新教育カリキュラムの作成会議を準備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業の反省会を基に授業改善の努力をした</li> <li>・アンケートなどを速やかに集計・分析し、生徒に対しフィードバックすることができた</li> <li>・シラバスを検証し、体系的な学習指導方法の改善に努めた</li> <li>・新教育課程編成の策定を、生徒の学力を考慮しながら行えた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学期ごとに教科単位で研究授業を実施し、教科会議等で反省会を行った。</li> <li>・生徒対象のアンケートを年3回実施した。</li> <li>・シラバスを作成し、生徒に配布した。</li> <li>・新カリキュラム作成会議を開き、作成を実施している。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価について、本校教員だけでなく、広く地域社会からの評価を得られるようなシステムを考える。</li> <li>・生徒からの授業評価を実施する。</li> <li>・課外講習についての内容を更に充実させ、授業ではカバーできない内容を押さえる。</li> <li>・授業力向上のための研修を実施する。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○受験生向けの情報発信に関しては、ホームページなどで積極的に提供しているが、一般向けの情報提供については、積極的な提供方法について検討する必要がある。</li> <li>○保護者に対する情報提供に関しては、時代の流れに応じて今後ますます精密に計画しなければならないと認識している。</li> </ul>	開かれた学校作りの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの情報更新間隔を短くして、タイムリーな情報をタイムリーな時期に掲載する。</li> <li>・図書館などを近隣住民に対して解放して、気軽に利用してもらう。</li> <li>・保護者会・面談会・懇話会を定期的に実施する。</li> <li>・オープンキャンパスや学校説明会にて、参加者の意見をまとめ、今後の課題を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの更新を随時行うことができた</li> <li>・保護者対象の学校評価アンケートをきちんと分析し、意見を集約した</li> <li>・生徒対象の進路アンケートにて、学校評価についての結果分析を行った</li> <li>・地域主催の学校説明会に対し教員を積極的に派遣し、本校の説明を行った</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの更新をその都度行い、タイムリーな情報発信ができた。</li> <li>・生徒や保護者からのアンケートを集約・分析して、学校運営の参考にした。</li> <li>・学校説明会やオープンキャンパスを開催したり、文化祭や体育祭などの行事に近隣住民の方に来校いただいたりして、活気ある内容になった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に安全対策に留意しながら、地域住民に開かれた講座やイベントを充実させる。</li> <li>・保護者や住民の方々に授業を参観してもらおう。</li> <li>・図書館などの施設・設備を積極的に活用してもらおう。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多くの生徒が目指す大学進学を実現させるために必要な学習指導・進路指導をしっかりと体系立てて行う必要がある。</li> <li>○教員は、大学入試問題研究を積極的に行い、授業に反映できるように心がける。</li> </ul>	進路実現に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二者面談や三者面談を通じて生徒の希望を常に把握する。</li> <li>・大学入試問題研究を教科ごとに実施し、研究結果の報告を、授業を介して速やかに報告する。</li> <li>・授業内での不十分な箇所を講習の実施や課題の作成で補う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が希望する第一志望大学に合格した比率が昨年より上がった</li> <li>・大学入試問題研究を積極的に行い、授業や講習等にてフィードバックがなされた</li> <li>・講習の参加者が増え、また講座数も増えた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三者面談、二者面談を行い進路実現に対する心構えや指針などの確認ができた。</li> <li>・課外の講習を実施し、各学年8割以上の参加があった。</li> <li>・年末・年始に新たに講習を開講し、多くの受講者を得た。</li> <li>・教育課程の評価は適切に行われた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習時間の定着、充実をより一層図らなければならない。</li> <li>・生徒と常に接しながら目標達成に向けての指導を充実させる。</li> <li>・数多くの大学入試問題を研究し、授業における教材として十分に活用できるだけの準備を怠らない。</li> </ul>

学校関係者評価	
実施日	平成23年4月16日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観を行ってもらえないか?</li> <li>・シラバスを効果的に利用したいと考える。</li> <li>・今後新課程が導入されるが、生徒に対してタイミングよく学習内容をフィードバックしてもらいたいと考える。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート集約結果を保護者が閲覧できるように、ホームページなどで公開してもらえないだろうか?</li> <li>・学級通信や進路通信などのお知らせが充実しているので、今後も継続してもらいたい。</li> <li>・文化祭は常に活気にあふれている気がする。来校者も年々増えてきて、ますます楽しみである。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人に対しての指導が行き届いてきたと思う。今後は、いかに一段高い目標を設定させていけるかになると思う。</li> <li>・面談の機会をもう少し弾力的に増やしてもらえるとありがたい。</li> </ul>	